

# チェコの中等教育においてジェンダーが進路選択に与える影響

石倉 瑞恵<sup>1</sup>

## 要 旨

チェコの後期中等教育段階における学校種・専攻間の男女生徒数偏りの実態、進路選択へのジェンダーの影響を明らかにした。生徒と教師は、女子生徒と男子生徒間に学習姿勢、得意分野、関心の相違があるととらえており、このジェンダー・ステレオタイプが偏りの要因であると考えられる。すなわち、専門職のジェンダー・バランス、初等・中等教育学校教師の価値観、進路選択以前の基礎学校での価値観育成に問題がある。ジェンダー・ステレオタイプは、男女の相違を前提とした男女間秩序、異性に対するポジティブな関係、敬意、教養ある行動を育むことに重きが置かれている基礎学校カリキュラムにも見出されることを明らかにした。

キーワード：チェコ、進路選択、ジェンダー、基礎学校カリキュラム、中等教育

## 1. はじめに

本稿では、チェコを事例として後期中等教育段階の学校種および専攻間に生じる男女生徒数の偏りとその背景を明らかにすることを目的としている。

筆者はこれまで、チェコの高等教育における男女学生数の偏り、特に大学工学分野における女性の少なさや、博士課程から研究職に至る女性割合の減少に焦点を当て、その要因を明らかにしてきた。しかし、チェコの学校教育は、後々の進路変更が難しい分岐型学校体系（後述）をとっており、最初の進路選択を経た後期中等教育段階が、高等教育段階の偏りの発端になっていると考えられる。また、日本においても高等教育における男女数の偏りを解消しようとする試みはあるが、高等教育段階での偏りは、その前段階に要因を探る研究が有効であると考えられる。幼児期の価値観形成、初等・前期中等教育段階の価値観・自己形成、そして後期中等教育段階における進路選択に関する研究である。

本論では、初等・前期中等教育の学校文化とジェンダー形成が後期中等教育段階への進路選択に及ぼす影響に焦点化する。最初にチェコの後期中等教育各学校種、専攻における男女生徒数の偏りを示す。次に、各学校に進学した生徒、および各学校種の教師がその偏りの背景をどのように把握しているのか、チェコ教育・青年・スポーツ省が今後の課題をどのように把握しているのかを明らかにする。最後に、基礎学校（初等+前期中等教育）カリキュラムと生徒の価値観育成の問題を提示し、中等教育が内包するジェンダー・バイアスの一側面を明らかにする。

## 2. 先行研究

### (1) 学校文化とジェンダー

本研究は、学校文化を対象としたジェンダー研究である。学校文化は、それを構成する要素に着目した場合、建設や設備、教材、教具などの物質的要素／教授・学習、儀式・儀礼、生徒会活動や部活動などの行動的要素／伝達される知識や技術、学校生活を成り立たせている規範や価値などの観念的要素からなる（日本教育社会学会、2018）。学校文化のジェンダー研究は、玩具や教科書が含む暗黙知、教師の言動や授業プロセス、教師に対する生徒の反応等にジェンダー・バイアスを見出す「隠れたカリキュラム研究」に代表される。

教師の言動と生徒の反応には一般的に以下の傾向が散見されることが明らかになっている。Golombok and Fivush（1994）は、学校における教育過程を観察すると、指示を与える、不適切な行動を指摘する、コミュニケーションをとる、いずれの場合においても、教師は男子生徒を注目する傾向があると指摘している。また、男子生徒は自身の知識や正答に対して報われることが多いが、女子生徒は従順さや追随性に対して報われることが多い。

教師が性別役割分担に対する姿勢を直接言葉に示なくても、生徒は間接的にその姿勢を感じとり、教師の期待通りに行動する（Rosser, 1995）。例えば、男子生徒は女子生徒に比べて、準備不足で臨んだ試験の時にも自信をもつ傾向にある。教師が一般的に、男子生徒は勤勉ではないが特定の能力があると考えており、努力なくして成功することを期待するからである（Prucha, 2002）。

女子生徒が理系分野を進路として選択する場合、数学や科学の教師、および両親がその決断に最も影

<sup>1</sup> 石川県立大学 生物資源環境学部 教養教育センター

責任著者：石倉 瑞恵 (ishikura@ishikawa-pu.ac.jp)

響を与えると言われている (Rosser, 1995)。

## (2) チェコの学校教育とジェンダー

1989年民主化後、チェコはソ連型学術体制から脱却し、西側諸国の研究動向に追随した大学改革に着手した。ジェンダーという概念が浸透したのも民主改革以降である。しかし、欧米では1960年代以降の第二波フェミニズムを経て女性の社会進出が進んだことをふまえて、ジェンダー研究は欧米研究の最新動向ではないと解釈されたため、チェコのジェンダー研究は遅々として浸透しなかった<sup>1)</sup>。

チェコの学校現場を対象としたジェンダー研究は2005年頃に始まり、上記先行研究と同様の見解を導いている。Pavík and Smetáčková (2006) は、学校教育は総じて女子生徒に有利な分野だと述べている。男子生徒と比較し、初等教育段階から誠実に学習にとり組む女子生徒に後期中等教育段階以降の「受験」が有利に働いているからである。しかし、男子生徒の失敗や成績不振は、勤勉さとやる気の欠如だと解釈され、女子生徒の失敗や成績不振は、能力の低さの現れと解釈される傾向にある。

また、Smetáčková (2008) は、チェコの教育施策がジェンダーを十分配慮していないと指摘している。チェコ教育・青年・スポーツ省は男女平等を推進するという建前をとりながら、確固たる信念に基づく施策を提示しなかったからである。例えば、教科書をジェンダーの視点から評価するプランを提示してはいるが、検定者のジェンダーに関する見識を高める対策まで行き届いていなかった。

これまでに教員研修や教材作成に貢献してきたのは、NGO による研究・教材作成プロジェクトであった。春のカエル会 (žába na prameni) による「学校にジェンダーを」プロジェクト (2003 - 2006)、オープンソサイエティ (otevřená společnost) 「教育実践における機会均等」プロジェクト (2006 - 2007) 等である。両プロジェクトは、チェコの初等・中等教育におけるジェンダーの問題を調査し、初等・中等教育学校教師のためのハンドブック等教員研修用の教材作成、ワークショップ主催に携わってきた。

## 3. 後期中等教育段階の男女生徒数の偏り

### (1) チェコの後期中等教育学校

チェコの学校体系は図1に示したとおりである。初等教育と前期中等教育は基礎学校が担い、後期中等教育段階で主としてギムナジウム、中等技術学校、中等職業学校のいずれかを選択する分岐型学校体系をとっている。ギムナジウム、中等技術学校でマトゥリタ (maturita, 修了試験)<sup>2)</sup> に合格すると、

高等教育への進学が認められ、総合大学、非大学型高等教育機関、あるいは高等専門学校への進学が可能となる。中等職業学校2年・3年課程では、最終学年で所定の成績を収め、最終試験に合格すると職業資格となる見習証明を取得するが、高等教育への進学は認められない。ただし、中等職業学校で3年間の学修を経て職業資格を取得した後、2年間のフォローアップ・コースに進級して修了試験に合格すれば、高等教育への進学が認められる。

ギムナジウムは、その成り立ちが古典語学習を中心とした大学進学準備校にあり、現在も文系志向性が高いと言われている。職業教育を含まないので、職業選択を先延ばしにできる学校とともとらえられている。中等技術学校と中等職業学校には専攻があり、ここで選択した専攻がその後の進路 (高等教育の専攻や職業) に結び付く。

このように後期中等教育段階への進学は、将来を

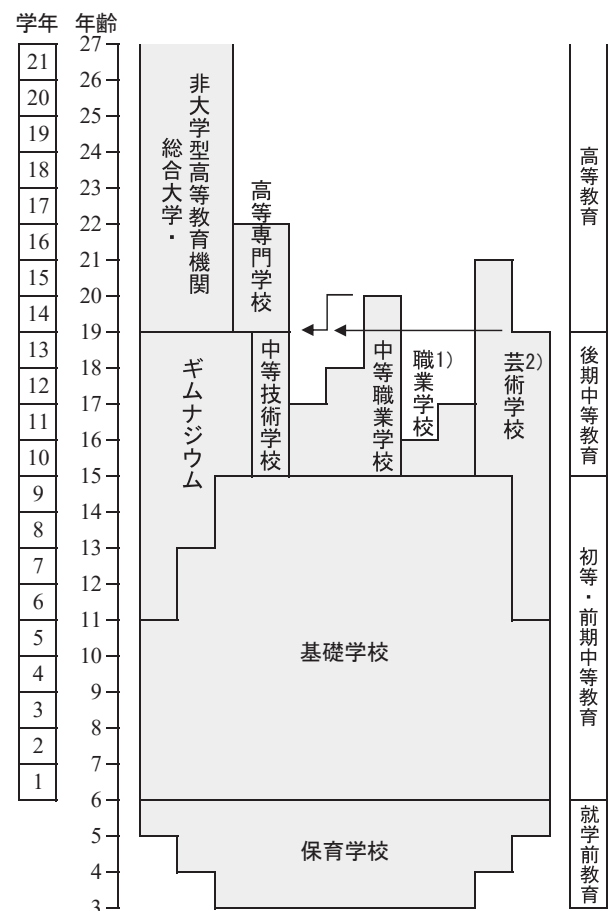


図1 チェコの学校体系

出典：文部科学省 (2019) に基づいて作成。

注：1) 主に基礎学校の未修了者を対象にしている。

2) 音楽と演劇は6年制（後期中等教育4年+高等教育2年）、舞踏は8年制（基礎教育4年+後期中等教育4年）。修了試験の合格者には芸術系高等教育への進学が認められる。後期中等教育4年目に修了試験を受ければ、芸術系以外の高等教育への進学も可能。

左右する重要な選択機会であるが、職業適性や特定の職業への希望が決定要因となっているわけではない<sup>3)</sup>。15歳の知識・経験では適切な判断ができないからである。学校側が選抜の判断材料として重視しているのも、専門への適性・関心ではなく、十分な基礎学力と真面目な学習姿勢、継続的通学の習慣である。したがって、入学試験は学校毎に実施されるが、どの学校でも一般的な学習適性を測ることに焦点化し、チェコ語と数学を筆記試験として課す傾向にある<sup>4)</sup>。もちろん、採点の効率・公正重視のため、この2科目が選ばれるという理由もある。公正を追求しすぎて基礎学校での学習の確認という単純な出題に偏り、暗記や反復学習が得意な生徒に有利な試験内容になっているとの批判もある（Smetáčková, 2008, 20-26）。また、選抜においては基礎学校9年生前期までの主要科目の成績平均値を活用することも多い<sup>5)</sup>。選抜の判断材料における基礎学校成績の割合は、1割から5割と様々である。

中等職業学校では無試験選抜であったり、面接<sup>6)</sup>を実施して学習意欲を確認したりすることもある（Smetáčková, 2005, 16-24）。なお、入試対策として、ギムナジウム志望者は有料受験講座を受講したり、志望するギムナジウムが提供する準備コースに参加したりするが<sup>7)</sup>、中等職業学校志望者の場合は、基礎学校が提供する個別指導、チェコ語と数学の補習を受ける<sup>8)</sup>（Smetáčková, 2005, 79-81）。すなわち、後期中等教育段階の各学校は、本来は特定の専門と進路を切望する生徒により構成されるべきであるが、基礎学校における学力差を反映した生徒構成になっていると言える。実際、高等教育進学に結びつくギムナジウムや中等技術学校進学者は学力が高いが、中等職業学校進学者はそうではない場合が多い。

## (2) 各学校種における男女比

以下にギムナジウム、中等技術学校、中等職業学校それぞれの生徒数と男女の割合を2020／2021年度の統計から見てみる<sup>9)</sup>。なお、男女生徒数偏りの背景を探る手掛かりとして、Smetáčkováが後期中等教育学校の生徒と教師に対して実施したインタビュー記録<sup>10)</sup>を活用する。

### 1) ギムナジウム

選抜基準が基礎学校における学力と学習態度であるため、Pavík and Smetáčková（2006）が述べているように、勤勉で努力家、計画性があり、暗記学習や地道な繰り返しが得意と一般的に考えられている女子生徒が入試では有利となる。確かにギムナジウムでは女子生徒の割合が高い。表1では、基礎学校レベルを含む8年制および6年制ギムナジウム、そして基礎学校卒業後に入学する4年制ギムナジウム

表1 ギムナジウムの生徒数（2020／2021年度）

	男(人)	女(人)	女(%)
4年制	18,460	30,881	63
6年制	5,499	7,862	59
8年制	32,645	36,452	53
合計	56,604	75,195	57

出典：Český statistický úřad（2021）より作成。

すべてにおいて女子生徒の割合が高いことが示されている（順に、53％、59％、63％）。

ギムナジウム在籍の女子生徒は、女子生徒の学習姿勢を以下のようにとらえている。「宿題は普通、女子がやるものです。男子は休み時間に廊下に座って宿題を書くことが多い（8年制ギムナジウム女子生徒）」。「女子はより多くのことを学び、より多くの時間を費やしているようです。女子の方が気を使うような気がします。彼女達はすべてにおいてきちんと学んでおり、すべてを記憶しているのです。男子は基本的なことだけを知っている傾向があります（4年制ギムナジウム女子生徒）」（Smetáčková, 2005, 73）。

すなわち、生徒もまた、女子生徒の特性が「勤勉で努力家、計画性があり、暗記学習や地道な繰り返しが得意」な点にあり、男子生徒とは異なる特性をもっていると認識している。

### 2) 中等技術学校・中等職業学校

表2では中等技術学校、表3では中等職業学校について、女子生徒、男子生徒全数に占めるそれぞれの割合が高い専攻を示している。なお、生徒数合計で見ると、中等技術学校では女子生徒の割合が高く（52％）、中等職業学校では男子生徒の割合が高い（65％）。

中等技術学校の場合（表2）、女子生徒の割合が高いのは、「ビジネス・管理、看護、リセウム、ホテル・観光、美術工芸、就学前教育・保育」等、すなわち経営、対人サービス、芸術関係の専攻である。男子生徒の場合は「コンピュータ工学、電子工学、ビジネス・管理、機械工学、機械サービス・修理」等であり、概して工学（コンピュータ、電子、機械、土木）と経営である。

中等職業学校では（表3）、女子生徒の割合が高いのは、「料理・給仕、ヘアドレッサー、製菓、販売・展示」と、衣食関連の専攻である。男子生徒の場合は「自動車整備、電気工事、料理・給仕、建具、鉋前」と、工業系の専攻である。女子・男子生徒両方の上位（それぞれ1位と3位）に「料理・給仕」が入っているが、女子生徒の場合はパティシエ、男子生徒の場合はシェフを志望する傾向にある<sup>11)</sup>。



表2 女子生徒・男子生徒の割合が高い専攻：中等技術学校（2020／2021年度）

2-1 女子			2-2 男子		
専攻	生徒(人)	% <sup>1)</sup>	専攻	生徒(人)	% <sup>1)</sup>
ビジネス・管理	18,121	18.0	コンピュータ工学	14,614	15.6
看護	12,033	12.0	電子工学	13,244	14.2
リセウム <sup>2)</sup>	9,997	9.9	ビジネス・管理	10,788	11.5
ホテル・観光	8,397	8.3	機械工学	7,869	8.4
美術工芸	8,340	8.3	機械サービス・修理	5,727	6.1
就学前教育・保育	8,052	8.0	リセウム <sup>2)</sup>	5,643	6.0
ソーシャルワーク・カウンセリング	5,017	5.0	建築土木	5,072	5.4
行政	4,512	4.5	総合技術	3,647	3.9
安全保障・法務	3,316	3.3	安全保障・法務	3,133	3.3
パーソナルサービス	2,645	2.6	ホテル・観光	3,107	3.3
その他	20,214	20.1	その他	20,720	22.1
合計	100,644	100.0	合計	93,564	100.0

出典：Český statistický úřad（2021）より作成。

注：1）女子生徒合計，男子生徒合計をそれぞれ100として，当該専攻の女子生徒，男子生徒が占める割合。

2）リベラルアーツの性質をもつ専攻。

表3 女子生徒・男子生徒の割合が高い専攻：中等職業学校（2020／2021年度）

3-1 女子			3-2 男子		
専攻	生徒(人)	% <sup>1)</sup>	専攻	生徒(人)	% <sup>1)</sup>
料理・給仕	7,778	24.7	自動車整備	7,768	13.1
ヘアドレッサー	5,711	18.1	電気工事	7,265	12.3
製菓	4,357	13.8	料理・給仕	6,257	10.6
販売・展示	1,836	5.8	建具	4,357	7.4
宣伝	1,653	5.3	錠前	4,010	6.8
造園	1,462	4.6	農業機械	3,915	6.6
看護助手	1,436	4.6	水道	3,341	5.6
食品加工	921	2.9	鉱業	3,165	5.3
農業	662	2.1	レンガ職	2,233	3.8
ソーシャルワーク	660	2.1	電気機械	1,887	3.2
その他	4,996	15.9	その他	14,971	25.3
合計	31,472	100.0	合計	59,169	100.0

出典：Český statistický úřad（2021）より作成。

注：1）女子生徒合計，男子生徒合計をそれぞれ100として，当該専攻の女子生徒，男子生徒が占める割合。

このような専攻間の男女生徒数の偏りの背景には，専門職における男女数の偏り／男子向き・女子向き学びが存在するとみなす社会認識／その社会認識を前提として，男子生徒あるいは女子生徒を主たる対象として設立された経緯等があると指摘されている（Smetáčková, 2005, 31-32）。

さらに，女子生徒が工学・工業系に少ない理由として，それぞれの学校の教員は，卒業後の女性の就

職が困難な分野である／女子生徒には興味がない分野である／中等職業学校の場合は女子生徒がその分野での実践的学習を好まないことを挙げている。全中等職業学校に占める男子生徒の割合が65％（女子生徒31,472人に対して男子生徒59,169人）と，3つの学校種の中で唯一の高さを示しているのは，工業系等，「女性の就職が困難な分野，女子生徒には興味がない分野」を専攻として提供している中等職業学

校が多いからである。例えば、中等職業学校電子工学の教員は「本校は、技術系の専門が多く、錠前とか電気工とかですが、そういう分野へ女子は通常志願しません。絵の職業は女子でもできるが、そういう女子のニーズにマッチした専攻がここにはない、というのが本校に女子生徒が少ない要因だと思います。私たちは多くの専攻を提供しているが、女子が求める条件と一致する専攻ではありません」と述べている（Smetáčková, 2005, 25）。

中等職業学校の工業系専攻を女子生徒が避ける要因となっている実践的学習とは、主としてカリキュラムに組み込まれている週2日のアプレンティシップを指している。例えば、電子工学を勉強するのはいいが、「ハンダ付けや切断、穴あけなどは女子にはちょっと無理です。だから、同様の分野であれば実践的学習がない中等技術学校を選ぶ女子がほとんど」と言う（Smetáčková, 2005, 25）。

また、生徒にも男子向き科目・女子向き科目、男女それぞれに特有の資質があるとの認識、男女生徒が異なる専攻を選択するのは当然との認識がある。例えば、中等職業学校でグラフィックアートを学ぶ女子生徒は、入試科目の静物画が男子生徒に不利だと話している。「男子は、女子に比べて絵を描くことに興味がないのが普通です。絵を描いている女子はたくさんいるような気がします。男子はコンピュータのほうが好きです。だから、男子はグラフィックアートに入りにくい」（Smetáčková, 2005, 81-82）。

なお、高等教育、とりわけ大学学生総数に占める女子学生の割合が高いのは、高等教育への進学が可能な後期中等教育学校における女子生徒の割合が高いことにその一因がある。また、医学部等総合大学理系分野における女子学生が男子学生と同程度の割合、あるいは専攻分野によっては高い割合となっているのも同様の理由、特にギムナジウムにおける女子生徒割合の高さによる。ただし、機械工学や電子工学の分野を主として提供する総合大学になると、女子学生の割合は著しく低くなる。高等教育工学分野は、中等技術学校工学系専攻からの進学者が多数を占める。中等技術学校の段階ですでに工学系を専攻する女子生徒の割合が低いのであるから、総合大学機械工学・電子工学分野における女子学生の割合は必然的に低くなる。

#### 4. 偏りの背景と問題

以上、学校種、専攻間の男女生徒数の偏りとそれに関する生徒と教師の認識を明らかにした。彼らは、男子生徒と女子生徒間の学習姿勢、得意分野、関心の相違を偏りの主要因としてとらえている。しかしながら、「基礎学校における基礎学習は女子生

徒が得意である／工学・工業系専攻は女子生徒のニーズに合わない／工業系の実践的学習は女子生徒には無理である」等、生徒と教師の認識そのものがジェンダー・ステレオタイプであり、偏りの要因となっていると考えられる。そこで、生徒と教師の認識も要因として加味して、改めて学校種、専攻間の男女生徒数偏りの要因をとらえ直すと、問題は①専門職におけるジェンダー・バランス、②初等・中等教育学校教師の価値観、③進路選択以前の生徒の価値観育成の3点にある。教育・青年・スポーツ省「男女共同参画支援計画（2021－2024）」は、①から③の問題について以下①'から③'の改善プランを提示している。

①' 専門資格開発・改定の際にジェンダー・バランスを考慮するシステムの導入、②' 基礎学校時の進路相談におけるジェンダー・ステレオタイプ解消方法の策定／学習評価におけるジェンダー・ステレオタイプの解消／男女生徒間の学力差（入試科目となるチェコ語と数学等の学力差）を解消する指導の導入／教員養成課程の教育内容にジェンダーの視点を導入、③' 「教育プログラムのフレームワーク」（Rámcový vzdělávací program, 後述、以降は「フレームワーク」と略記）を男女の機会均等、個人の可能性を引き出す視点から改定／基礎学校教科書を男女平等・ジェンダーの観点から評価（Ministerstva školství, mládeže a tělovýchovy, 2021a, 23-26）、である。

以下では③進路選択以前の生徒の価値観育成の問題に焦点化し、基礎学校のフレームワークと教科書をジェンダーの観点から検討する。

#### (1) フレームワークにおけるジェンダー

フレームワークとは、日本の学習指導要領に相当する統一カリキュラムである<sup>12)</sup>。1989年民主改革以降、国家当局に一元化されていた教育権限が地方に移管され、後期中等教育学校は14の地域圏（州）、基礎学校は市町村が設置主体となった。人事や予算配分等多くの裁量権が設置者に与えられたが、教育内容は教育・青年・スポーツ省管轄組織が発行するフレームワークによって統一された。しかし、教育内容に関しても各学校に多くの裁量が与えられている。フレームワークは到達目標を設定するが、それをどのように達成するかについては、学校が決めることができる。すなわち、学校の状況、生徒の構成、教職員構成等各学校の特色を教育内容、教育方法等に反映させることができる。カリキュラム運用が各学校に委ねられていると、地域社会の規範や価値観、それらを受け継ぐ教職員の思想・価値観が隠れたカリキュラムとして教育内容に影響を及ぼすという難点もある。保守的な地域社会であれば、ジェン

表4 「男性と女性に関わる」事項を含む科目とその到達目標

(科目) 人間とその世界 (単元) 周りの人々	人間と健康	市民性教育 社会の中の人間	健康教育	倫理
○親密な <u>家族関係</u> 、家族の役割、家族間の <u>関係</u> それぞれの意義を理解することができる。クラスメートや他の人々の <u>自然な違い</u> 、 <u>長所と短所</u> に対して <u>寛容</u> であることができる。 ○学校、男女間、家庭、村(町)の基本的な人間関係を自分の体験に基づいて表現し、 <u>共存のためのルール</u> を推論し、それを守ることができる。	○ <u>人体</u> に関する初歩的知識を用いて、基本的衛生習慣、生活習慣、その他健康のための習慣を身につけ、健康に関して適切な行動や活動ができる( <u>男女の性的差異</u> 、思春期の生物学的・心理学的変化等)。 ○健康を脅かす状況や <u>緊急事態</u> を想定したモデル状況において、適切な行動をとることができる( <u>性的虐待</u> 等)。	○社会における寛容の必要性を説明し、文化的特異性や人々の <u>異なる意見</u> 、 <u>興味</u> 、 <u>行動や考え方を尊重</u> し、少数派に対して <u>寛容な態度</u> をとることができる。 ○人々の行動における不寛容——人種差別、外国人排斥、過激派の兆候を認識し、 <u>不寛容の発現に対しては信念を貫いた行動</u> をとる。	○クラスメートなど仲間との <u>共存のルール</u> を尊重し、地域社会での良好な人間関係の形成に貢献することができる。 ○思春期の変化に対応し、 <u>異性に敬意</u> を払うことができる。 ○健康、倫理、道徳、前向きな人生の目標に関わる <u>セクシュアリティの重要性</u> を尊重し、思春期における <u>禁欲と責任ある性行動の重要性</u> を理解することができる。	○自尊心と <u>他者への敬意</u> を育むための基本的な知識と技術を習得する。

出典：Ministerstva školství, mládeže a tělovýchovy (2021b), 44-62, 89-93, 113-117より作成。

注：下線は筆者。

ダーという視点は重視されないこともありうる。

フレームワークは教科領域と横断的領域からなる。基礎学校フレームワーク(2021年版)の場合、教科領域(科目)は、言語・言語コミュニケーション(チェコ語・チェコ文学、外国語、その他の外国語)／数学と応用(数学と応用)／情報(情報)／人間とその世界(人間とその世界)／人間と社会(歴史、市民性教育)／人間と自然(物理、化学、自然、地理)／芸術と文化(音楽、芸術)／人間と健康(健康教育、運動)／人間と実践(人間と実践)／補足領域(演劇、倫理、映画・映像、舞踏)の10領域21科目である。横断的領域は、個人と社会の発展／民主市民教育／ヨーロッパ・グローバルな思考の発展／多文化教育／環境教育／メディア教育の6領域である。

全16領域21科目からなるフレームワークにおいてジェンダーに関わる事項を扱う科目は多くなく、その扱いも正しくはジェンダー関連とは言い難い。基礎学校フレームワーク全163頁の中で「ジェンダー」という用語は一度も用いられていない。したがって、以降は「男性と女性に関わる」事項と表記する。表4は、「男性と女性に関わる」事項と判断できる記述を到達目標に含む科目とその記述をまとめたものである。教科領域では、「人間とその世界」、「市民性教育」、「健康教育」、「倫理」の4科目に関連内容が含まれている。横断的領域では「男性と女性に関わる」事項はなかった。表4内、下線で強調した箇所は、キーワードとみなされる語句であり、それらを以下のように分類することができる(括弧内

は科目名)。

①家族関係(人間とその世界)、②違いへの寛容(人間とその世界、市民性教育)、③共存のルール(人間とその世界、健康教育)、④性的差異(人間とその世界、健康教育)、⑤異性への敬意と教養ある行動(人間とその世界、健康教育、倫理)。

②から⑤は、男女の相違を前提とした男女間秩序、異性に対するポジティブな関係、敬意、教養ある行動を育む内容であり、そこには男女間の平等意識を育む内容、ジェンダーの多様性を学ぶ内容は含まれていないことがわかる。フレームワークに含まれる男女間のポジティブな関係と敬意の観点から、教科書の中でどのように具体化されているのか、以下に基礎学校教科書の分析を通して明らかにする。

## (2) 倫理教科書における男性と女性

とりあげるのは、基礎学校5・6年生を対象とした「倫理」の教科書『倫理応用テーマ』(Etika v průřezových tématech pro 5. a 6. ročník základní školy)である<sup>13)</sup>。83節の中で、「男性と女性に関わる」題材が扱われている節は「男の子と女の子(Kluci a holky)」、「父—母—子ども？(Otec-matka-dítě?)」の2節のみである。ここでは「男の子と女の子」の節を見ることとする。見開き2頁は、日本の道徳教科書で多く採用されている「読み物」ではなく、グループワーク、ディスカッションを行うための問いかけとそれに関わるショートストーリー、イラストにより構成されている。問いかけを列挙すると以下の通りである(Krejčová, 2010, 12-13)。



- ① クラス対抗のサッカー試合で活躍できなかったトマーシュ（男子）は、気になる女子アンナが彼の失敗に大笑いしたのを見て傷ついたという内容のショートストーリーの後、「トマーシュのためにアンナへ手紙を書こう」。
- ② 「男子が一日だけ女子に変身する映画を考えてください。グループに分かれて、創作映画『ヤン（男性のファーストネーム）の一日』のシーンを書こう。」
- ③ 「クラスの男子と女子にとって最も楽しいことは何か、クラス投票をしよう。例えば、『男子はどのような映画を好み、女子はどのような映画を好むか』というように、具体的な質問を考えてみよう。探偵ものが好きか、コメディが好きか、結果を評価して、違いがあるのか、どのようなところが違うのか考えてみよう。」
- ④ 「『男』、『女』と書いたカードを持ち、『家庭内で誰が何をするべきか』に関する質問への回答をカードで上げよう。回答者は男女一人ずつ前に出て皆に背を向けて座ります。『誰が洗濯をするのか／誰が洗車をするのか／誰が友人を招待するのか／誰が花に水をやるのか、等』」
- ⑤ 「男性にしかできない職業、女性にしかできない職業は何ですか。100年前と比べてどのような発展があったか、説明しよう。」

「男性と女性に関わる」事項を扱った節ではあるが、それは単なる材料であり、フレームワーク「倫理」の到達目標「明確で達成可能なルールを守り、学級コミュニティづくりに参加する／シンプルな表現で気持ちを伝える／相手の状況を考え、適切な援助を行う／言語による適切な質問の仕方を理解する／他人の喜びや苦しみに共感する／基本的な感情を識別し、その経験について他者と会話し、共感に基づいて支援を考える／家庭や教室での対人関係の中で建設的な役割を果たす／集団的な場での共感を分析し、応用する」、そして「自尊心と他者への敬意を育むための基本的な知識と技術を習得する（表4）」（Ministerstva školství, mládeže a tělovýchovy, 2021b, 113-117）に対応している問いかけである。すなわち、対人関係・集団におけるコミュニケーション力、感情の共有と協働の資質、他者への敬意を身につけるためのタスクであると考えられる。

それぞれの問いかけの具体的なねらいは以下の通りに解釈することができる。①サッカーが得意（女子生徒にもはやされる男子生徒の条件）であるように演じたかったトマーシュの気持ちを汲みとること、同性、あるいは異性の視点からトマーシュに共感し、気持ちを伝えることを促す。②男子生徒が自分達とは異なる女性の生活に理解をもち、女子生徒

もまた男性と女性の生活の違いに理解をもつ。「他者」への理解と敬意、共同創作活動へと促す。③男子の嗜好と女子の嗜好という身近な題材を用いて、経験を表現して共感したり、違いを評価したりしながら、活発な学級コミュニティ活動を促す。④と⑤は、言語による適切な質問、学級コミュニティづくり、創造性の発揮を促すことがねらいであるが、文化的産物としてのジェンダーのあり方は多様であるという共通認識に達することも可能なタスクである。ただ、専門職における現実的な男女数の偏りを背景として、男性と女性それぞれの特性と強みを理解し評価するという展開の中でねらいを達成する可能性のほうが高い。担当教員の思想・価値観に委ねられるとも言える。総じて、コミュニケーション、感情共有、他者評価、協働を促しながら、男女の相違理解、男女間のポジティブな関係と敬意を意図的に、あるいは暗黙知として育む構成になっている。

このような男女間の差異を相互評価する学習活動のみでは、男女の資質や能力、嗜好にまでも生来の差異があるとするジェンダー・ステレオタイプを内在化する危険性がある。そのステレオタイプが生徒の自己形成、進路選択を左右する要因になると考えられる。「男女共同参画支援計画」を契機として、男女の相違をとらえる方向から、多様性の集合として人間を把握する方向へと基礎学校カリキュラムを再検討することが求められる。

## 5. おわりに

以上、後期中等教育段階への進路選択の際に生じる男女生徒数の偏りを解消するための課題が、①専門職におけるジェンダー・バランス、②初等・中等教育段階の教師の価値観、③進路選択以前の生徒の価値観育成の3点にあることを把握した。③に関して、基礎学校のフレームワーク、教科書を分析した結果、男女の差異を相互評価する資質を育む傾向が強く、ジェンダー・ステレオタイプを内在化する要因となることが明らかになった。

しかし、学校カリキュラムや教科書の問題を検討するのみでは十分ではない。知識を伝える教師の価値観や指導・評価方法、進路相談、基礎学校時のチェコ語と数学の男女生徒間学力差等の問題を検討する必要がある。特に、教員養成課程がこれらの問題とどのように向き合うのが鍵となるであろう。さらに、専門職における男女数の偏りを解消することは、多様なジェンダー・モデルを形成することになり、進路選択に大きな影響を及ぼすことが予想される。

また、本稿では女子生徒が少ない分野に焦点を当て、女子生徒の障壁となる要因を中心として検討し

たが、男子生徒が少ない分野に関してその背景をとらえる研究も必要である。中等技術学校の対人サービス、芸術関係専攻、および中等職業学校の衣食関連専攻に男子生徒が少ないのはなぜか、について検討することである。男子生徒がジェンダー・ステレオタイプから逸脱することは、女子生徒よりも難しいことが指摘されている。春のカエル会が作成した教員研修用ハンドブック『ジェンダーに配慮した教育 ―何から始めるか』（Genderově citlivá výchova: Kde začít?）では、児童生徒の行動には仲間集団の影響が強く影響するので、経験した性役割を超えていくことは困難であるが、男子生徒はより困難を強いられるとして以下のように述べている。「料理教室に通いたいという男子がいたとしても、恥ずかしくて多数派に合わせるだろう。技術職を目指したい女子生徒も、同じように感じるかもしれない。しかし、少し違うのは、男性は女性よりも性別の役割を越えるのが難しいということである。社会では、女性が決められた性別の役割を越えることがより受け入れられ、そのような女性は『男性』の役割の中で『迷子』になることはない。しかし、男性が性別の役割を超えようとする、ほとんどの場合、そこには不安（同性愛者とみなされることへの恐れなど）が付きまとう」（Minarovičová, 2007, 66）。

男子生徒が特定の進路を回避する要因を含め、男子生徒、および女子生徒の側から考察を行うことは、次なる課題としたい。

### 謝辞

本研究は、2019 - 2022 年度科学研究費助成事業（基盤研究 C）「若者文化の中で再生産されるジェンダー・ストーリー ―チェコと日本の比較―」の成果の一つである。

### 注釈

- 1) 日本では、チェコを対象とした教育とジェンダー研究は筆者によるもの以外見られない。
- 2) マトゥリタ (maturita) はイギリスの GCE-A レベルに相当する。教育・青年・スポーツ省が英語に翻訳する際には、マトゥリタを A-level examination としている。
- 3) 進路決定の理由は、特定の科目が嫌い／専門決定の先送り、気が変わった時のためにギムナジウムを選択／就職を考えてギムナジウムを避ける／無試験選抜／学校の設備、規模／中等技術学校を選択した場合は大学進学率／兄弟姉妹、友人が通っている／親の勧め／家業や親の職業との関連／将来を考えるというより、身近に知っている分野に関心をもつ／自宅から近い、交通の便が良い等である (Smetáčková, 2005, 60-55)。
- 4) 中等技術学校の医療系、美術系、歯科技工等では、そ

の専攻特性に応じた試験が課されることもある。

- 5) 中等技術学校と中等職業学校は、主要科目、および専攻に必要な科目で平均値を出すこともある。
- 6) 社会的需要が高い専門につながる専攻でも面接を行い、関心と態度を見ることがある。
- 7) ギムナジウムでは、数学オリンピック等の業績が考慮対象となることもあり、そのような課外活動に力を注ぐ生徒もいる。
- 8) 選抜で加点対象となる場合、職業訓練のための課外活動（似顔絵描き、レスキュー隊、動物園等）やアルバイト（農業、ウェイター等）をする生徒もいる。
- 9) 同統計を遡り当該年度以前も同様の傾向が続いていることが確認された。
- 10) ギムナジウム、中等技術学校（建築中等教育学校、中等工業学校測量科等）、中等職業学校（ガストロノミー中等専門学校、中等職業学校（建設業）、中等職業学校（建築業）等）17 校において生徒と教師に実施したインタビュー調査 (Smetáčková, 2005)。
- 11) このような専攻内の偏りは、女性化が進んでいる医療・保健分野においても顕著である。例えば、中等技術学校の衛生検査技師、医薬品検査技師コースでは女子生徒が多く、眼科技師や歯科技工士では男子生徒が多い。
- 12) 2005 年に告示後、2017 年、2021 年に改定。
- 13) 現行の教科書（2010 年発刊）であるが、「男女共同参画支援計画」（2021 - 2024）の教科書評価は適用されていない。

### 引用文献

- Babanová, A a Miškolci, J (ed.). 2007. Genderově citlivá výchova: Kde začít? Příručka pro vyučující základních a středních škol, vydaná v rámci projektu Rovné příležitosti v pedagogické praxi. Aploys.
- Bradáčková, L a Staudková, H. 2010. Lidé kolem nás Aplikovaná etika pro 4.ročník ZŠ. Alter.
- Český statistický úřad. 2021. Zaostřeno na ženy a muže 2021. <<https://www.czso.cz/csu/czso/3-vzdelavani-otkxiamzrf>> 6.25. 2022. inspected.
- Golombok, S and Fivush, R. 1994. Gender development. Cambridge University Press.
- Krejčová, V. 2010. Etika v průřezových tématech pro 5. A 6. ročník základní školy. Mutabene.
- Minarovičová, K. 2007. Když se řekne: Výjimka potvrzuje pravidlo. In Babanová, A a Miškolci, J (ed.). Genderově citlivá výchova: Kde začít? Příručka pro vyučující základních a středních škol, vydaná v rámci projektu Rovné příležitosti v pedagogické praxi. Aploys.
- Ministerstva školství, mládeže a tělovýchovy. 2021a. Plán podpory rovnosti žen a mužů Ministerstva školství, mládeže a tělovýchovy na léta 2021-2024.



Ministerstva školství, mládeže a tělovýchovy. 2021b.

Rámcový vzdělávací program pro základní vzdělávání.

文部科学省. 世界の学校体系 チェコ共和国. <[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/other/\\_icsFiles/afeldfile/2019/07/17/1396864\\_021\\_1\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afeldfile/2019/07/17/1396864_021_1_1.pdf)>. 2019年7月19日更新. 2022年6月25日閲覧.

日本教育社会学会 (編). 2018. 教育社会学事典. 丸善出版.

Pavlík, P and Smetáčková, I. 2006. Liší se plat učitelů a učitelek? Jak tato odlišnost vzniká? Analýza odměňování žen a mužů ve školství. Otevřená společnost, o.p.s.

Průcha, J. 2002. Moderní pedagogika. Portál.

Rosser, S. V. 1995. Teaching the majority: Breaking the gender barrier in science, mathematics, and engineering. Teachers College Press.

Smetáčková, I (ed.). 2005. Genderové aspekty přechodu žáků a žákyň mezi vzdělávacími stupni. Sociologický ústav Akademie věd České republiky.

Smetáčková, I. 2008. Genderový potenciál rámcových vzdělávacích program. In Skálová, H (ed.). Genderovou optikou : Zaměřeno na český vzdělávací system. Gender Studies, o.p.s.

Úřad vlády ČR. 2021. Strategie rovnosti žen a mužů na léta 2021-2030.

# **Consideration on the Influence of Gender on School Choice at the Secondary School Level in the Czech Republic**

Mizue ISHIKURA (Liberal Arts Education Center, Ishikawa Prefectural University)

## **Abstract**

This study clarifies the gender bias among school types and majors at the later secondary school level in the Czech Republic and identifies factors that influence students' choices. Students and teachers in each school perceived differences in learning attitudes, strengths, and interests between girls and boys, and this gender stereotyping may have contributed to the bias. In other words, there are problems not only in the gender balance of professionals, but in the values of primary and secondary school teachers, and the development of values of basic school students prior to their career choices. Gender stereotypes were also found in the basic school curriculum, which emphasizes the existence of binary opposites, a gender order based on gender differences, and the development of positive relationships, respect, and educated behavior toward the opposite sex.

**Keywords:** Czech Republic, school choice, gender, basic school curriculum, secondary education